

U003-P08

会場:コンベンションホール

時間:5月26日 16:15-18:45

## 金星夜面雲頂高度の温度分布に見られる特徴

### Characteristic features seen in a temperature distribution at nightside cloud top of Venus

二口 将彦<sup>1\*</sup>, 田口 真<sup>1</sup>, 福原 哲哉<sup>2</sup>, 佐藤 光輝<sup>2</sup>, 今村 剛<sup>3</sup>, 中村 正人<sup>3</sup>, 上野 宗孝<sup>3</sup>, 鈴木 睦<sup>3</sup>, 岩上 直幹<sup>4</sup>, はしもと じょーじ<sup>5</sup>

Masahiko Futaguchi<sup>1\*</sup>, Makoto Taguchi<sup>1</sup>, Tetsuya Fukuhara<sup>2</sup>, Mitsuteru Sato<sup>2</sup>, Takeshi Imamura<sup>3</sup>, Masato Nakamura<sup>3</sup>, Munetaka Ueno<sup>3</sup>, Makoto Suzuki<sup>3</sup>, Naomoto Iwagami<sup>4</sup>, George HASHIMOTO<sup>5</sup>

<sup>1</sup>立教大理, <sup>2</sup>北大理, <sup>3</sup>宇宙研, <sup>4</sup>東大理, <sup>5</sup>岡山大理

<sup>1</sup>Rikkyo Univ., <sup>2</sup>Hokkaido Univ., <sup>3</sup>ISAS/JAXA, <sup>4</sup>U. Tokyo, <sup>5</sup>Okayama Univ.

あかつき搭載中間赤外線カメラ (Longwave Infrared Camera:LIR) は世界で初めて金星夜面全体の撮像に成功した。LIRは濃硫酸の雲から放射される赤外線を可視化する。得られた放射強度を温度に変換することで雲頂の温度分布をみることができる。

今回、金星夜面雲頂の温度分布に見られる特徴をまとめた。過去に観測がある位置では温度の比較もおこなった。主な特徴は、極域やポーラーカラーにみられる大きなスケールでの低温構造、金星ディスク全体で視線方向の違いで見られるリムダークニング、高緯度から低緯度に見られる帯状構造、さらに小さなスケールでの温度構造である。

リムダークニングの解析をすすめることで雲の光学的厚さの高度分布を導出することができる。

今回 LIR によって得られたデータは、夜側での雲頂高度付近の大気ダイナミクスや雲生成化学の理論研究に制約を与える。

キーワード: あかつき, 金星, 中間赤外カメラ

Keywords: Akatsuki, venus, LIR